

こうさい通信

NO. 80 平成27年7月

発行 社会福祉法人 東京弘済園
特別養護老人ホーム
弘済園

〒181-0013

東京都三鷹市下連雀 5-2-5

TEL 0422-47-8965

FAX 0422-41-1783

tokuyou_2f@kosaien.or.jp

http://www.kosaien.or.jp/



園内散歩

弘済園では日々の暮らしの中で、気分転換にと散歩のお誘いを積極的に行っています。園内には八重桜、藤棚のある芝生広場、きれいに整備された花壇、保育園児たちが育てた畑等、自然豊かで見どころ満載です。散歩をすると気持ちも晴れやかになり、表情も自然と和らぎます。

芝生広場では花見会、お茶会等も随時開催しております。日々の暮らしのリフレッシュに今後とも園内散歩の機会を設けていきたいと思っております！！

平成27年度6月 家族会報告

平成27年6月14日に、家族会・喫茶やすらぎを行いました。第1部には49名のご家族が参加され、田中園長の挨拶、市川施設長による現状報告、村田係長による事故報告を行いました。第2部の喫茶やすらぎには、52名のご家族が参加してくださいました。

第1部

1. 田中園長のご挨拶

- ・今年度の介護保険の改正により、弘済園は年間で約4000万円の減収となります。今後、運営は厳しくなって行きますが、職員一丸となって頑張ります。
- ・昨年度、弘済園では23名の方がご逝去されており、一昨年の倍以上となっています。介護保険の改正により、今後は基本は介護度が3以上の方が入所の対象になるので、重度化に伴い入院される方も増えていくと思われます。
- ・弘済園の後援会である、『慈弘会』の会員が減ってきています。ご協力をお願いします。

2. 市川施設長より現状報告

- ・昨年度の事業報告...昨年はご逝去される方が多く、インフルエンザやウイルス性の胃腸炎の流行もあり、新規入所者の確保が困難であった。
- ・弘済園の現状報告...昨年は看取りでのご逝去が13名と、昨年度の倍となり、看取りの需要が増えている。
- ・昨年度の第三者評価の報告（アンケートによる改善が望まれる点と改善策）

| | |
|------------|--|
| 職員の対応について | マナー研修で指導している。今後もマナー研修を行っていく。 |
| 下剤の処方について | 排泄の問題は、色々な病気につながる為、便秘にならないように処方させて頂いている。 |
| 爪切りが出来ていない | 介護職員では困難なことが多い、介護職員でも出来るよう研修を行い、勉強している。 |
| 床ずれが出来てしまう | 入院後に褥瘡になってしまう事が多い。色々な方法を試みて、改善を目指している。 |

3. 村田係長より事故報告

- ・薬の事故がゼロになるように努力していく。
- ・転倒・転落の事故が、事故全体の半分ほどの数になっている。対策を検討しているが、安易に身体拘束を行ったりせず、その方らしい生活が送れるように支援していく。

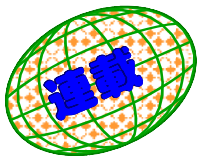
4. 質疑応答

- ・慈弘会になるべく入ってもらうために、申込書を配る等、入りやすい方法を検討してはどうか。
本日（家族会にて）、配るように用意している。今後も継続していく。
- ・日本財団のような団体から寄付や助成を受ける事を積極的に検討してはどうか。
申込みを行っているが、弘済園では鉄道弘済会の土地を無償で使用している為、他の団体からの援助は、難しい。

第2部

各フロアーに分かれて、喫茶やすらぎを行いました。今年は、「バニラあんずクリーム」という爽やかなデザートを、皆さんで食べました。ご家族と利用者との楽しいひと時となりました。





進行胃癌と抗癌剤

私の知人の看護師A子さん（45歳）は日頃から明るく朗らかな人で、いつも病院内を元気に走り回って仕事をしていました。昨年暮れより食後の腹部膨満感が現れ、また下腹部が少々ふくらんできた事に気づきましたが、食欲もあり仕事を休む事はありませんでした。今年の2月、症状が続くので自分の病院で胃カメラ検査を受けたところ胃癌が見つかり、腹部CT検査で腹水がたまっている事も分かりました。その病院は小さい病院でしたので、近くの私立医大附属病院に入院となりました。診断は「進行胃癌、腹膜転移」（第4期）でした。

担当医から「このままでは余命3か月ほど。抗癌剤治療をやりましょう」と言われ、入院2日後から抗癌剤治療（2種類の抗癌剤）が始まりました。しかし抗癌剤の副作用は激しく、嘔気、嘔吐、白血球・血小板減少、発熱、呼吸困難、臓器障害などが起こり、食事も全くできなくなり、激しい副作用に苦しみながら治療開始後わずか7日目に死亡しました。入院時は元気であり、「頑張るわよ」と笑顔で話していましたので、家族は「余命3か月と言われ、それが延びると信じて抗癌剤治療を受けたのに、たった1週間で死亡したのはどういう訳だ。殺されたようなものだ！」と声を震わせて怒っておりました。しかし担当医からはまともな説明はありませんでした。家族は裁判も辞さないと言っていますが、裁判を起こしても現在の日本の医療体制では患者は勝てないでしょう。

死亡診断書の死因は「胃癌、腹膜転移」と記載されていますが、本当の死因は「抗癌剤死」です。Aさんは「胃癌」ではなく「抗癌剤の副作用」で死亡したのです。腹水のある進行胃癌に抗癌剤はまったく無意味です。治癒はもとより延命効果もありません。むしろAさんの様に副作用で苦しんだあげく、寿命が短くなってしまいます。

抗癌剤のほとんどは薬物分類では「毒薬」または「劇薬」に指定されています。Aさんに使用された抗癌剤も「毒薬」と「劇薬」でした。第4期の胃癌は「末期」ですので、末期患者に「毒物」を投与すれば、早死にするのは当然の事です。患者に必要なのは「毒物」ではなく、美味しい食べ物（栄養）と休息や慰めだと思えます。Aさんは、家族と過ごす事もできず、人生の整理もできず、旅行にも行けず、会いたい人にも会えず、食べたい物も食べられず、病院の窮屈なベットの中で、抗癌剤の激しい副作用に苦しみながら、「人生の最後の大切な時期」を無駄に過ごす事になってしまいました。考えればむごい話です。抗癌剤に意味がない事、副作用が激しい事、死期がむしろ早まる可能性が高い事は担当医は知識として知っていたはずなのに、なぜ本人・家族にそれを説明せず、治療と称して抗癌剤（毒物）を漫然と投与したのか。情けない話です。

高度進行胃癌には抗癌剤は無意味であり、副作用で苦しみながら人生の最後を無駄にするだけです。担当医の安易な説明を鵜呑みにせず、抗癌剤治療を断わり、自宅にて家族と共に人生の最後を悔いなく精一杯生きることが大事であると思えます。

第三者評価受審結果についての報告

皆様がサービス事業者を選ぶときの参考にしていただくためと、利用者のニーズの把握、施設の問題点や改善点などを明確にし、サービスの向上を促進するため、ご家族、利用者のご協力を得て26年度も第三者評価を受けました。

今回は「関東シニアライフアドバイザー協会」に調査して頂きました。
簡単ではありますがご紹介します。

特に良いと思う点

- ・多職種が連携して介護サービスを提供しています。
- ・利用者の安全確保への取り組みの体勢が構築されています。
- ・関係者間のコミュニケーションの向上を図っています。

さらなる改善が望まれる点

- ・職員一人ひとりの育成計画の策定が望めます。
- ・レクリエーションを増やして利用者がより楽しく過ごせるよう期待します。
- ・今後社会ニーズが高まる看取り介護の更なる充実を期待します。



第三者評価結果報告書のより詳しい情報を求める場合は下記のウェブサイトより確認が出来ます。

ウェブサイト「東京福祉ナビゲーション」
<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>

27年度 異動職員紹介

7月より3階勤務となりました。
以前にも3階では勤務していましたが、すっかり変わってしまっていて慣れずにいます。係長ということもあり、緊張もしていますが、このまま良い緊張感を保ちつつ、皆様のお世話ができたらと思っています。
よろしくお願ひします。



3階・係長
五十嵐美也子

7月から主任をさせていただきまず遠山です。3階に異動になり早3年目となりましたが、まだまだ至らないことも多々あると思いますが、一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。



3階・主任
遠山真一

3階にきて約6年になりますが、7月から主任となりました、新井です。至らないところもありますが、頑張ってやっていきたいと思ひます。
宜しくお願い致します。



3階・主任
新井千恵美

事務での仕事から転職し弘済園で働き始めてから早いもので10年が経ちました。今後も皆さんが落ちついて生活できるよう援助していきたいと思ひます。日々、大切にし更に成長できるよう努力していきます。

今後とも宜しくお願い致します。

4階・主任
高原俊作



8月から2階に異動になりました山口と申します。以前も2階で働かせて頂いておりましたが、新たな気持ちで頑張りたいと思ひます。宜しくお願い致します。

2階・主任
山口良子



他職員人事報告

結婚 山口主任
結婚 清水ケアワーカー

新人 藤野ケアワーカー・4階配属
退職 梅田係長(6月30日付)

生活写真館



×クイズ



×クイズ



ハンドマッサージ



ハンドマッサージ



塩もみきゅうり



お花見会



お花見会



施設長による竹笛の会



パティオでサッカー



居室会



歌コスモス



ボール遊び

平成26年度弘済園事業報告

(1) 安定した利用率の確保

入院・死亡退所による空床・欠員が生じないように速やかな補充に努めたが、今年度は長期入院者と退所者が多く（年間29名）、さらに年末から蔓延したインフルエンザ、感染症胃腸炎の影響を受けて利用率の低下が続いたため年間目標を達成できなかった。短期入所は空床利用により定員を超える利用率を保つことができた。

(2) 看取り介護の実践と勉強会の実施

今年度は13名の方の看取り介護を行った。昨年度（5名）に比べ、2倍以上の方を園で看取ったことになり、住み慣れた場所で安らかな最期を迎えたいとの本人及び家族の希望により多くなったものと思われる。今後もますます望まれるサービスであると実感した。また、職員に対しては、勉強会を実施し、看取り介護の意義及び日頃の不安や疑問、看取りを行うにあたっての心情について意見交換することで、より理解を深める事ができた。

(3) 利用者個々の状態に応じた機能訓練の実施

常勤の作業療法士を中心に非常勤の理学療法士と作業療法士で連携して、利用者個々の心身状態に配慮した個別機能訓練を実施し、心身機能の維持向上を図った。さらに多職種が連携し、日常生活動作や意欲の向上に努めた。



お知らせ

本号でも杏林大学八王子校の工事の様子をご紹介致します。工事も大分進み建物の形がはっきりとしています。写真（左の写真）の右手側は外壁の工事も行われています。

弘済園の正門を出て右へ進むと歩道の工事も行われています。道路がもう少し広くなるのでしょうか？大分景色が変わりました。工事関係の人通りも多くなったように思います。ご面会の時に皆様もよく通る道だと思しますので、お気をつけてお越しくださいませ。

日本無線の建物（右の写真）でも取り壊し工事が進んでいます。周囲の景色がどんどん変わっていきますね。



外壁も少しずつ作られています。



この奥の建物は殆どなくなりました。

ご芳志ありがとうございました

(平成27年4月～6月)

寄付

齋藤芙美子様 仲本淳様 山崎芳克様

寄贈

大竹六夫様 齋藤時義様 佐藤千代子様 (有)瑞光園様
武川様 吉野裕子様

(50音順)

編集後記

梅雨が、そろそろ終わり、いよいよ夏本番になりますね。夏バテしないように、美味しい物をいっぱい食べたいです。今回から、担当者が変わります。加藤・橋爪・浅野の3人です。宜しくお願いします。浅野

